

	新潟大学 保健系分野（歯学）
学部・研究科名	歯学部歯学科（第1年次：40名、第3年次：5名） 口腔生命福祉学科（第1年次：20名、第3年次：6名） 医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻（M：6名、D：3名） 口腔生命科学専攻（D：28名）
沿革・設置目的	昭和40年、歯学に関する教育・研究を行うことを目的とし、新潟大学歯学部が設置された。 昭和24年（1949年） 新潟大学設置 昭和40年（1965年） 新潟大学歯学部設置 昭和47年（1972年） 新潟大学歯学研究科設置（平成13年医歯学総合研究科に改組） 平成16年（2004年） 国立大学法人に移行
強みや特色などの役割	○ 新潟大学の理念である自律と創生に基づき、基礎的な専門知識、深い教養、問題解決能力、基礎臨床能力を持ち、少子高齢化、グローバル化を迎えた現代社会・地域社会で活躍できる歯科医師・口腔保健福祉医療人、また、自ら研究課題を開拓し、独創的な研究を遂行できる研究者及び科学的基盤を持ち超高齢社会で指導者となる高度医療専門職業人の養成を積極的に推進する。 ○ 新潟大学が推進している口腔のQOLの向上を目指した4大基礎・臨床的研究（口腔保健・福祉学的研究、摂食嚥下研究、再生工学研究、口腔環境研究）等を始めとする各領域における研究の実績を活かして、新潟大学発となる研究シーズを元に、先端的で特色ある研究を推進し、新たな歯科医療技術の開発・実用化や歯科医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。 ○ 集学的対応が不可欠な疾患や治療法に対応できる専門医の養成、周術期口腔機能管理をはじめとしたチーム医療の推進、有病・高齢者への対応や歯科再生医療の実践等の取組を通じて、新潟県等における地域歯科保健・医療及び人材育成の中核的役割を果たす。 ○ 問題発見解決型学習等による少人数教育の実施のノウハウ及び新たな教育評価法を開発・普及させるとともに、今後ますます増加する摂食嚥下障害患者の診療に取り組み、多職種連携による対処法・食事療法等に

	対応できる人材養成プログラムを構築し、国内外の人材養成モデルとなることを目指す。
--	--